

選挙権行使が18歳以上になるにあたり、どのような主権者教育が必要か

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

暑い日が続いています。その中で高校野球が行われ、選手の皆さんは素晴らしい活躍を見せてくださり、応援の皆さんも熱い応援を見せてくださって、有難いと思います。ただ、くれぐれも熱中症にならないように気をつけていただきたいと思います。水分をたくさんとりながら、プレーをしたり観戦をしたりしてください。

2. さて、前にお話したかもしれませんが、来年の参議院議員選挙から18歳以上の方に選挙権が与えられます。公職選挙法が改定され、来年2016年7月に予定されている参院選から、選挙権を行使できる年齢が現行の20歳以上から18歳以上へと変わります。

選挙権とは、国民の代表を選ぶ権利です。そこで、主権を持つ人として、主権についてしっかりと学ばなければいけないということで、文部科学省でも学校でも主権者教育をどのように進めるかについての議論をしています。

そのようなわけで、今日の「開倫塾の時間」では、主権者としての教育をどのように行ったらよいかについて少しお話をさせていただきます。

3. 少し難しいですが、まずは主権とは何かということです。主権とは、国の政治のあり方を最終的に決定する力のことです。日本の場合は、日本国憲法第1条で「主権者は日本国民である」と規定しています。この第1条は有名な条文ですので、ご承知の方もたくさんいらっしゃると思います。

「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であって、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く。」です。

4. これは、国のあり方を最後に決めるのは誰かという話で、何百年も前のヨーロッパの絶対君主制では王様でした。「政治のあり方は最終的に君主の意思を以って決める」となっていました。その後には様々な民主的な革命があり、「国のあり方を最終的に決めるのは国民である」となり、現在の日本でも憲法でそのように規定しています。

では、天皇陛下はどのような立場かということ、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴です。つまり、日本では象徴天皇制を採っています。また、主権は国民にあるとして、日本国憲法は国民主権のしくみを構築しています。

5. では、国民の代表者はどのように選ぶかという点、日本国民が主権者としての選挙権を行使して選びます。これを間接民主制と言います。日本は1億2000万人以上の方がいますが、全員が一堂に会するのは困難です。そこで、代表者を選び、その方々に国民の代表としていろいろなことをしてもらいます。この場合における主権の行使の仕方として、選挙という形を採るのが日本国憲法のしくみです。

6. 代表者を選ぶ権利、つまり選挙権を持つのは、今までは20歳以上の国民でした。それが2016年度の選挙からは18歳以上になります。そこで、主権者教育をどのように行うかが盛んに議論されているのです。長い前置きになりましたが、このようなわけで高校を卒業するかしないかの18歳・19歳の皆さんにどんな主権者教育をし、選挙権を行使してもらうようにするかが大切な課題となっています。

7. 日本では小学4年生頃から地方自治を学び始めます。栃木県であれば、市や町の庁舎に行ったり、県庁を訪問したりします。そして、地方自治がどのように成り立っているのかを学びます。また、中学3年生では社会科にある公民で、週に何回か日本国憲法や国の政治などについて学習します。高校1年生は現代社会、2年生は倫理、3年生は政治経済という科目で、現代の社会はどのようになっているのか・どのような民主的な考え方があるのか・日本の政治や経済はどうなっているのかなどについて、週に何回か深く学びます。このような教育課程(カリキュラム)ができています。

これに加えて、小学校・中学校・高校の授業で日本や世界の地理・歴史を体系的に学ぶことによって、主権者教育が成り立つという形になっています。

8. 教科以外の学級会活動・生徒会活動・委員会活動・部活動・自然体験活動・修学旅行・体育祭・学校祭なども、代表者をみんなで選び、自分の役割を果たしながら社会のしくみを実体験するという意味で、主権者教育に非常に役立ちます。

日本は教科以外のカリキュラムもよくできていますので、きちんと勉強するとかなりよい主権者教育が成り立つと思います。ただ、これを一所懸命にやっても、実際の選挙となると国政選挙でも地方選挙でも投票率が若者ほど低くなります。つまり、若者の政治に対する無関心が露呈します。

9. その対策として、新聞をよく読む、CRT 栃木放送などのラジオやテレビのニュース・政治番組を視聴する、雑誌を読むなど、マスコミを通して現代社会の問題を知り、どのような考え方があるのかを理解するのがよいと思います。例えば、今話題になっているのは、中国・北朝鮮・ロシアなどの国々との関係や集団的自衛権などです。これらに関して様々な考え方がありますので、その考え方を理解し、自分が代表者を選ぶときの参考にするとよいと思います。

国政選挙では、これで国の運命が決まります。ですから、新聞・ラジオ・テレビ・雑誌などで話題になっていることをよく理解した上で、いざ選挙というときに国民の代表者として最もふさわしい方に投票するのが一番だと思います。ぜひ、身近な新聞・ラジオ・テレビ・雑誌などを活用することをお勧めします。